

全く無い。ところでこの種の兵庫県下の記録は次の3例がある。即ち、洲本市由良町〔堀田, 1978〕, 飾磨郡家島〔畑中・辻, 1974〕, 赤穂市生島〔相坂ほか, 1995〕。これらは本州でないといえれば本州ではない。いずれも瀬戸内海に存在する島々である。それ故分布地に本州を掲げていないといえればそれまでであるが、行政区画でいえば兵庫県に所属する。本州といった表現がいけなければ上記地点は分布に加えて貰わねば困るということを手張しても良いのではないかと思う。或いは兵庫県の南側海岸線沿いに本種を見出すことは不可能なことではないと考えている。現在の“毒グモ”騒ぎの例にも見られるように、南方系の種であっても結構日本に定着しているものは他にも多くいることだと考えている。直接我々と関連がないこの虫

であるが、安住の地を本州の暖かい地域に求め定着することはあり得ることではないだろうか。

<参考文献>

河野広道, 1950 日本昆虫図鑑
f.3345, p.1165 (北隆館・東京)

中根猛彦, 1956 日本の甲虫(30)
新昆虫 9(1):55-57.

中根猛彦, 1963 原色昆虫大図鑑 第2巻 (甲虫篇) (北隆館・東京)
pl.130, f.20, p.260.

宮武睦夫, 1985 原色日本甲虫図鑑(III)
pl.69, f.22, p.408. (保育社・大阪)

佐藤正孝, 1989 日本産昆虫総目録 I . p.410.
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

コガネムシの食草と集団行動に
ついての報告

新家 勝

コガネムシは、原色日本昆虫大図鑑(北隆館昭和38年4月10日)に「6~7月に多く、種々の広葉樹の葉を食害する」と記されているとおり、多種の植物の葉を食害する。

ところで、筆者は1994年6月17~18日に西宮市田近野町の武庫川川原で、多数のコガネムシがメドハギ(マメ科の多年生草本)に集まり、集団で葉を食べるとともに交尾しているのを目撃したので報告する。この場所は武庫川の中洲の痩せ地で、ノイバラ、ヨモギ、マツヨイグサ類などが生えており、メドハギも多いが、この時期、普通はノイバラが食草となり、一本のノイバラに数頭がいて葉を食べているのがよく見られる。当日は、まだ十分に成長していない、60cm程度の草丈のメドハギ10数本に、10~20頭の本種が集まっていた。当

年は多く発生したようであるが、これまで食草とは思っていなかったメドハギに、あまりにも多く集まったことに興味をもった。



(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)